

研究主題「自ら学習を調整しながら、主体的に学び続ける力を育む指導の工夫

—一人1台端末を活用し課題に応じて学ぶ『幅跳び』の学習を通して—

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
荒川区立瑞光小学校 主任教諭 菊地 誠

第1 研究のねらい

中央教育審議会答申（令和3年1月）には、「これからの学校教育においては、子供がICTも活用しながら自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう、『個に応じた指導』を充実することが必要である。」さらに、「個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。」と示されている。

また、東京都教育施策大綱（令和3年3月）には、「すべての子供たちが、社会の変化を柔軟に受け止め、生涯に渡って様々なことに粘り強く挑戦し、（中略）主体的に学び続けることができるよう、その素地を確実に養うことが求められます。」と示されている。

このことを踏まえ、小学校学習指導要領（平成29年3月告示）の体育科の目標に示されている、豊かなスポーツライフを実現するためには、児童が課題に応じて自ら学習を調整しながら、運動の楽しさや喜びを味わい、主体的に学び続ける力を育むことが求められると考える。

特に、陸上運動系は、自己の能力に適した課題や記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、「幅跳び」は素早い動きが多く、動きの瞬間を捉えた伝え合いが難しいことから、中学年段階から一人1台端末を活用することが効果的であると考える、本研究で取り扱う。

以上のことから、自ら学習を調整しながら、主体的に学び続ける力を育む指導の工夫について研究することをねらいとする。

第2 研究仮説

幅跳びにおいて、課題解決を助けるデジタル教材を開発し、一人1台端末の活用や課題に応じた学びを促す指導、学習過程の工夫をすることで、児童は課題に応じて自ら学習を調整しながら、主体的に学び続ける力を育むことができるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 自ら学習を調整することを、児童一人一人が自己の特性や学習進度等に応じて、試行錯誤しながら自ら活動を選択することと捉える。（図1）児童は、端末を活用しながら、図1のような活動を選択し学習に取り組むと考える。

(2) 主体的に学び続ける力を、学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自ら学習活動を振り返って調整し、次につなげようとする力と捉える。主体的に学ぶためには、「見通しをもつ」、「粘り強く取り組む」、「振り返って次につなげようとする」の一連の流れが重要であると考え。

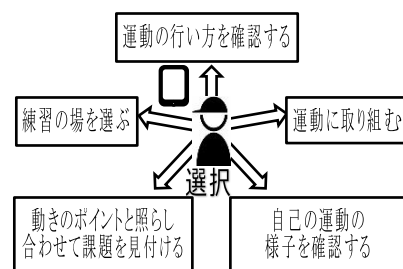


図1 自ら学習を調整することの捉え

2 調査研究

体育科でのICT活用状況やデジタル教材に求める内容を明らかにする目的で、令和3年7月に都内公立小学校6校の指導者（体育科の指導経験がある者）78名と、都内公立小学校1校の第4学年児童95名を対象に調査を実施した。

その結果、体育科でのICTの活用について否定的な回答は指導者全体の47%であった。

（図2）これは、主にICTの効果的な活用の仕方が分からないこと、準備の手間がかかることに起因している。（図3）また、児童と指導者がデジタル教材に求める内容は「動きのポイントが分かる模範動画」と「自己の運動の様子を確認したり、模範動画と比較したりできるもの」と回答する割合が高いことが明らかになった。

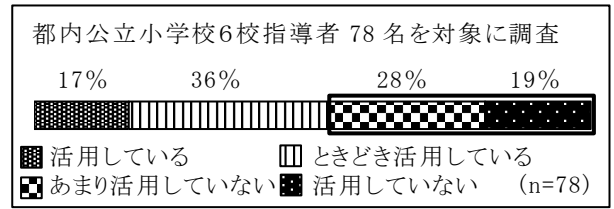


図2 体育科でのICT活用状況

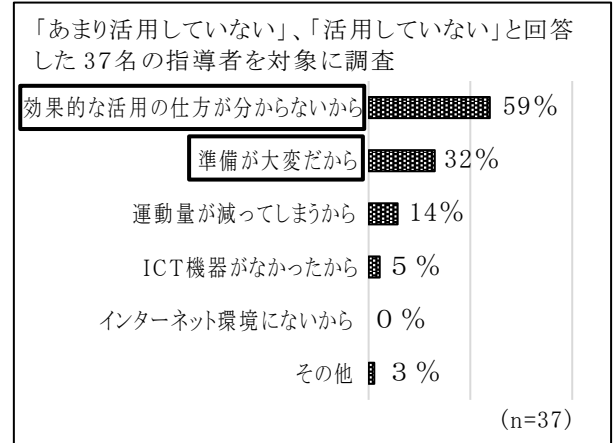


図3 体育科でICTを活用していない理由（複数回答可）

3 開発研究

(1) 課題解決を助けるデジタル教材

児童一人一人が、自己の課題に応じて学習を調整しながら、主体的に学ぶことができるよう課題解決を助けるデジタル教材を開発した。

一人1台端末の主な活用方法と期待される効果は右のアからエの4点である。

クリックでダウンロード画面へ
※令和4年度まで

デジタル教材・活用マニュアルDL



ア 模範の試技と動きのポイントの動画資料により、知識を身に付ける



模範動画

イ カメラ機能により、自己の運動の様子を把握し、課題を見付ける



活用説明動画

ウ 自己の課題から、解決のための練習の行い方を確認する



練習動画例

エ 技能の習熟度に応じて、既習事項の学び直しや、発展学習に取り組む



(2) 学習状況を把握する指標

課題に応じた学びを促す指導ができるよう、「技能」、「思考・判断・表現」について学習状況を把握する指標と、次の段階に進めるための指導者の支援例を作成した。

（表1）

表1 学習状況を把握する指標（一部抜粋）

段階	指標	努力を要する状況	概ね満足する状況		十分満足する状況
		1	2	3	4
助走から踏切り	指標	助走から片足で踏み切ることができた。	5歩～7歩の助走から、踏切りゾーンの中で踏み切ることができた。	5歩～7歩の助走から、自分の決めた足で踏切りゾーンの中で踏み切ることができた。	何度でも、5歩～7歩の助走から、自分の決めた足で踏切りゾーンの中で踏み切ることができた。
	支援例	口伴走をしながら並走し、5歩の助走のリズムを実感させる。	助走の走り出しの位置を調節するよう促す。	走り出しの位置と助走のリズムを意識するよう促す。	

指標資料
完全版 DL



(3) 自ら学習を調整しながら、主体的に学び続ける力を育む授業モデル

自ら学習を調整しながら、主体的に学び続ける力を育めるよう学習過程を工夫し、授業モデルとして示した。(表2)

授業モデル
完全版 DL



表2 自ら学習を調整しながら、主体的に学び続ける力を育む授業モデル(一部抜粋)

	単元前半		単元後半	
活動	運動の特性を知る。	動きのポイントにまとめる。	学習の調整を知り、試す。	自ら学習を調整しながら、課題解決に取り組む。
指導上の留意点	単元のねらいが明確になるよう、運動の特性について共通理解を図ることが大切である。	児童が気付きや実感をもって動きのポイントを理解することが大切である。指導者はこつを見付けたり、それを共有したり、試したりする学習活動を設定する。	児童が一人1台端末を活用し、学習を調整するためにも、友達との協働的な学習を促すことが大切である。指導者は端末の基本的な活用方法や動画撮影の際の立ち位置などについて指導をする。	児童が主体的に学び続ける力を育めるよう、自ら学習を調整しながら、課題解決に取り組むことが大切である。指導者は、児童に端末を活用しながら学習を調整するよう促すが、活動選択の判断は児童に委ねる。 また、支援が必要な児童に対して、資質・能力の向上を図るとともに、意欲を引き出せるよう重点的に指導をする。

4 検証授業

(1) 検証授業の概要

対象	都内公立小学校 第4学年(95名)
実施期間	令和3年9月17日～30日(1学級)、11月11日～12月2日(2学級)
単元	走・跳の運動 幅跳び(全5時間)

(2) 検証授業の結果と考察

ア デジタル教材の作成と一人1台端末の活用について

デジタル教材を単元開始前に全児童の端末にダウンロードし、授業予告をするとともに興味のある児童は見てもよいことを伝えた。検証授業では、第3時以降の学習を調整する中で活用した。単元終了後に一人1台端末を活用した学習について調査したところ、以下の結果となった。(図4)

74%の児童が知識・技能が身に付いた要因として、端末の活用を挙げている。また、記述から「友達と協力して自己の運動の様子を動画で確認することができた。」「動きのポイントと照らし合わせて課題を見付けることができた。」など端末の活用について効果を実感している様子が見られた。

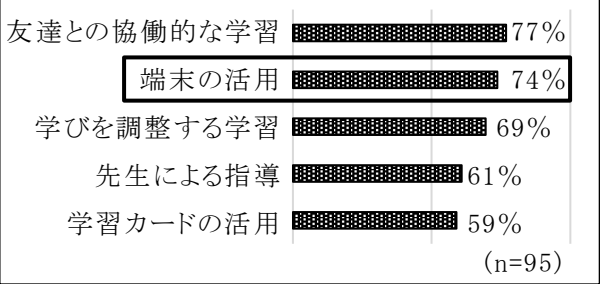


図4 知識・技能が身に付いた要因

さらに、事前調査で「体育の学習でタブレットを使って学習したくない。」と回答していたある児童は、単元終了後の振り返りでは次のように記述している。

お手本動画を見ることでこつが分かった。また、友達に跳んでいる様子の動画を撮ってもらい、一緒に見ることで直した方がよいところが見付かった。直すための練習をタブレットで調べたら、もっと遠くに跳べるようになって嬉しかったし、楽しかった。

これらのことから一人1台端末の活用によって、児童は自ら学習を調整し、幅跳びの特性に応じた楽しさや喜びを味わうことができたと考えられる。

イ 課題に応じた学びを促す指導について

学習状況を把握する指標を記載した学習カードを活用し、課題に応じた学びを促す指導を行った。単元終了後に主体的に学び続ける力について調査したところ、以下の結果となった。（図5）

どの児童も、主体的に学び続ける力の向上を実感している。検証授業の振り返りの記述より、指標を活用しながら、学習状況を把握し、具体的にめあてを立てる様子が見られた。（表3）これは、運動の行い方を知り、見通しをもって運動に取り組んだり、振り返ったりしながら課題を見付け、解決することで次につなげることができている姿だと考える。

また、振り返りの際、次時の具体的なめあてを立てた人数の割合は右の結果となった。（図6）めあてが具体的でない児童には、指標を参考に見通しをもたせ、重点的に指導をすることで主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。

さらに、単元終了後に「この学習で学んだことを生かして、どんなことをがんばりたいと思いますか。」と聞いたところ、他の学習や生活でも生かそうとする記述が見られた。（表4）

これらのことから課題に応じた学びを促す指導によって、児童は主体的に学び続ける力を育むことができたと考える。

第4 研究の成果

第4学年幅跳びにおいて、課題解決を助けるデジタル教材を開発し、一人1台端末の活用や課題に応じた学びを促す指導、学習過程の工夫をしたことで、児童は課題に応じて自ら学習を調整しながら、主体的に学び続ける力を育むことにつながった。

第5 今後の課題

陸上運動系その他種目やその他の領域において、自ら学習を調整しながら、主体的に学び続ける力を育む指導の有効性を検証する必要がある。

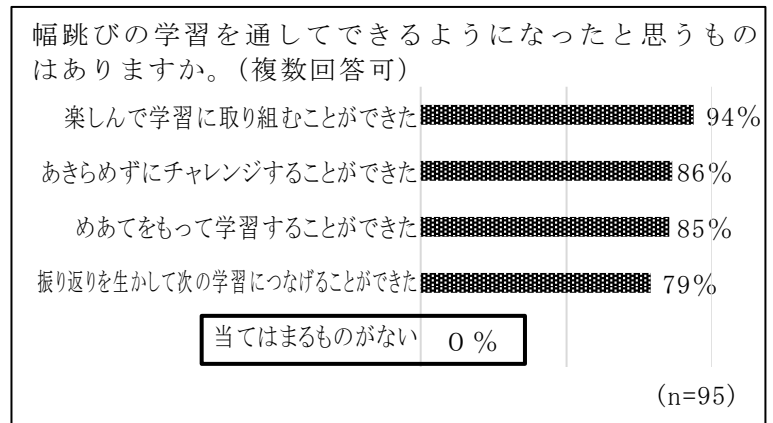


図5 主体的に学び続ける力についての意識

表3 検証授業の振り返りの記述内容

振り返り	ちゃんと顔を上げて踏み切れていてよかった。次は「ん」の字着地を意識してやってみる。
次時のめあて	赤のゴムを越えるために「ん」の字着地をする。

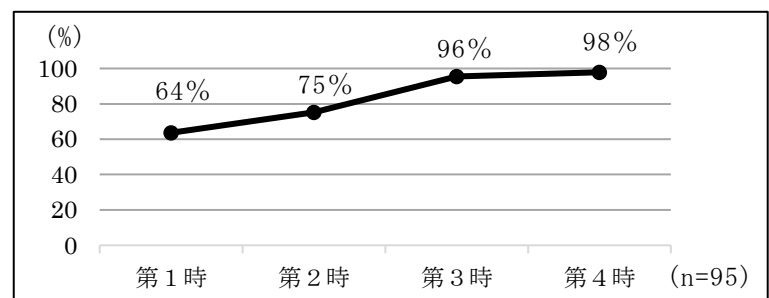


図6 振り返りを生かして具体的なめあてを立てた人数の割合

表4 主体的に学び続ける力に関する記述内容

児童A	短距離走のタイムを縮めるために、ポイントを考えながら自分の動きを見て、「運動」と「振り返り」を繰り返して学習したい。
児童B	野球のバッティングフォームを動画で撮ってもらい、できているところや課題を見付けることで次の練習に生かしたい。